

海外薬学実習で学んだこと

薬学部 5 年

約 2 週間にわたる海外研修では多くの事を学ぶことができました。

大学では甲状腺疾患や糖尿病、がんについての講義を聴講することができました。事前に配布資料や動画を見て予習をする反転授業、他キャンパスとのモニターによる中継授業など、日本ではあまりないスタイルで授業に参加することができたと思います。

MTM コールセンターや ICUBA など大学の設備も見学させていただきました。MTM コールセンターでは実際の仕事内容やアメリカの保険について知ることができ、ICUBA では乾癬の病態や治療について学ぶことができました。実際に患者さんから電話を受けたり、電話をかけてアドヒアランスの確認や保険についてのマネジメントを行ったりなど日本にはない仕事を見学することができ、とても良い経験になりました。Pharm.D program についても話を伺うことができ、アメリカの薬剤師制度や授業スタイル、カリキュラム、portfolio などについて詳しく知ることができたと思います。

薬局や病院見学でも日本との違いを体感することができました。薬局では、血糖値や血圧を測定できるのは日本と同じですが、PT/INR の測定を行ったり、ワーファリンの投与量をプロトコルに基づいて変更できたり、お薬手帳や在宅医療の有無について知ることができました。病院では精神科病棟を見学しましたが、重症度をレベルで分けたり、施設内で裁判を行う事ができたり、患者さんの宗教を考慮して施設内に教会が設置されていました。1 番驚いたのは、患者さんを含めたカンファレンスです。実務実習でカンファレンスに参加しましたが、患者さんを交えることはありませんでした。医師や他の医療従事者を含めたカンファレンスは直接話を聞いたり、話したりすることで患者さんの状態や症状をより詳しく知ることができ、今後の治療方針（薬の減量など）について考えるのに良いなと感じました。

ハリケーン等で当初の予定とは変わってしまった部分もありましたが、短期間でとても濃い時間を過ごす事ができたと思います。SGD で話した内容や、自分で疑問に思っていたことも解決できたので良かったです。

また、約 5 ヶ月間、薬局と病院での実務実習を経験しましたが、アメリカと比較すると日本の薬剤師の仕事はまだ発展途上にあるのだと感じました。それとともに、自分の知識不足を感じました。アメリカの授業はガイドライン等を中心とした内容であり、配布資料や時々出てくる問題等もレベルが高いように思えました。これを機にガイドラインを見る癖をつけるなど、知識の定着につながるように工夫して勉強していきたいと思いました。